

古き魚山声明博士と只博士の成立について

水 原 夢 江

魚山声明は慈覚大師円仁により、中国より伝来された声明であり、その声明の博士と云われる譜面に就いて考察を試みたい。

慈覚大師が声明承来時に声明博士を伴ったものかどうかには就いては不明とされ、博士を伴っていなかったという説が概念化している。

併し鎌倉時代の声明非凡の明土蓮入房湛智記の引声の文に「慈覚大師対三大唐法道和尚被相三伝之而帰朝時於海上成就如是博士御心中御不審云云爰生身阿弥陀仏海上現如是ヤト云云大師此曲ヲ御伝アリトイヘドモ不始行レ之御入滅云云御弟子相応和尚被レ始レ之東塔常行堂」とあり、是博士御心中御不審との記が示すことは、何等かの博士の存在を示す貴重なる文献の一つである。故に私は慈覚大師は声明博士を伴って承来されたものと推察するものである。但し現在に至るも、その博士なるものは発見されていない。

大師以後の声明として博士の存在が明らかに認められるも

のには、良忍上人の「四智讃」と、(113) 良忍自筆の「引声阿弥陀陀」を弟子の実報房長海が伝受し、良忍の孫弟子慈心房智俊が之を透写し、その弟子蓮入房湛智が透写し、又その弟子讃岐法印宗快が透写し、更に実相院快憲(嘉禎二年)の透写せしものの二点が金光を放つの貴重最大のものである。其他の博士として、その一端を残しているものに家寛法印流博士。堯雲房頼澄流博士。妙音院流博士。蓮界房淨心流博士。蓮入房古博士。蓮入房流只博士。大進法印覺淵写非世流布之博士。覺淵写世流布之博士。明忍房叙阿写之博士。只博士。妙音院写笛穴博士。円珠房喜淵写五音博士。覺淵写五音博士等の存在を見る。

亦以上の声明博士の他に、讃岐法印宗快(嘉禎四年)著の魚山目録を、建長八年三月廿五日於大原草菴書写之了宗祐の魚山目録によれば、「琴譜声明集」「妙音院声明集」「笛穴声明集」の三種の声明巻物と校合して調子が記入されてあることから、当時魚山に於て此の三種の声明集が存在し、但つ魚山

声明に於ける参考文献として重要な位置にあったことが知られる。併し残念なことには此の三種の声明集は魚山にて見当らないのである。覺淵自筆と言われる笛穴声明集の一部が見当るのみである。と同時に、このことは記譜法（博士）は異なれども、曲調及び音律旋律等は同じであることを裏付けていることも見逃すことの出来ぬ重要な意味がある。

又同時に良忍の四智讃。蓮入房流只博士。只博士。円珠房喜淵写五音博士等の只博士と五音博士を除いた声明博士の形態は、元来一つの博士の形態を元本とした表記法の個人的差異のものと見做されるのであるが、唱える者にとっては、その小異が不分明であれば唱えられぬこととなる。

此処に於て、大原魚山に於ても此等の不統一な声明博士の出現多出により、一旦良忍により総合統一された魚山声明が分離分派されて行く運命が回避出来なくなつたものと思われる。現に當時に於て古流。妙音院流。新流と言われる三派の流派が出来たことは御承知の通り、但し此の三派の流派も本源は良忍上人一人である為、良忍上人の声明を変化せしめることなく唱えることに鎔を削っているのである。此処で氣を付けなければならないのは、一般的流派の分立に言われる如く、大筋は同じであるが、塩梅において相違があると言う如きものではなく、同一音曲は唱法に至っては全く同一で、表記法の相違により各流派の存在があつたのである。…やがて

後世に到つて博士の相違と伝承の困難さにより、独立した独自の流派となつて行つたが：

亦非世流布と世流布との声明と言う説が存在する如く、非世流布とは、この博士は吾等の所用の譜ではないと言うことであり、世流布とは吾人等の所用の譜面である声明という意味である。故に博士が異なれば：小しの異いでも：他流といった思考が大をなしていたと思はれる。但し此等の博士の中の五音博士については、前記種々の声明博士が存在する中で音位の校正には、この五音博士が常に引合いに出されて校合されているのである。このことから此の五音博士は何時頃出来たものか不明なるも、此等の博士の以前又は良忍以前に既に存在したのではないかと思考されると同時に、重要な博士であつたことには間違いないと考えられる。

扱て、此等の中、何といつても声明中興の祖は良忍一人であり、現存している良忍真筆の博士と、透写の博士引声を見るに、文字は同一人の筆を透写されたものと見做されるも、博士に於ては全く別系統の博士である。四智讃の博士は、良忍自ら目安に書くと言われた博士である。引声の博士は古博士という系統に属するものである。此の古博士に就いて宗快の起草した魚山目録によつて古博士と只博士との二つが完成したと言われているが、その奥書に、

「本云嘉禎四年戊戌二月九日於大原草菴造此図訖是則付古

博士為令知五音也但任愚意抄之而再治定比謬多之歟後賢必可添矣魚山未学宗快」

とあり、此の図は古博士に付けて五音を知らしめんが為なりとあるごとく、古博士の音位を知らしむる尺度を示すものである。

これを透写の博士引声に付して見るに、博士の音位の解説が明瞭に蘇えって来る。尚又引声の博士自体を見るに、近時まで大原に使用された古博士と同様の博士であり、従って声明博士を書写する時の約定も明瞭に示されていることに気付く。即ち引声を見る限りにおいて良忍上人の引声の博士は、精練され、約定され要約され統一された博士と見られるのである。之により、明治初期まで大切にされたこの古博士が良忍の時既に完成間近であったと思われることは、良忍以前に同系統の不統一な博士が存在し、良忍によって統一されたと見做し得るのであり、這の一つの画期的事績は良忍を声明中興の祖と云はしめた理由の一つであらうと思われる。将亦その音位の約束を宗快によって図示され、此処に完全な古博士の成立を見たと言うべきであらう。魚山血脈を見るに良忍の弟子に十人有り、音曲相承次第（蓮入房記）を見るに良忍は文殊讚。百石讚は堯雲房より受け、始段唄は家寛より受けている。又互坂法印（キ）彼弟子也雖_レ為_二本本願御弟子_一於密宗声明者

彼律師曲取_レ学也と蓮入房記にあり、彼律師とは蓮華院律師

を指す。彼様に良忍に自伝の声明を伝え、同時に良忍に声明を習った人々でもある。察するに良忍の伝承と異なった博士の伝承を三師と弟子より受けた良忍にとっては、博士の統一完成が避けられぬ一つの現実であったと思われる。

さらに四智讚の目安博士なるものを見るに、これは旋律の姿をより分明に表らわそうとする表現で、引声の博士よりは理解しやすいのであるが、此の時点に於いては不安定な要素は否むべくもない。併し古来の博士より、より理解しやすい博士をと願った良忍の考えが、この試作となったことは、おそらく間違いないと考えられる。此の良忍の願いが四代目の弟子蓮入房湛智によって、完成されて只博士となった。

此の新作された只博士から見ると、引声の博士は古博士と称ばれるに至ったことも頷けると共に、非凡な戈智を持った湛智が良忍の心を汲み、樂書を漁り樂律を究め緻密に研讃黙考し声明用心集上中下（樂律論。声明口伝（博士書方の注意書）。声明目錄（出音音位、調子、曲調並拍子の決定書）上下等を著わし全精力を博士に遣わし、遂に只博士を完成せしめたのである。

宜なるかな、古流は疾く亡び妙音院流は関東に伝播するも衰滅し唯だ只博士による声明のみが八百年の今日まで伝承せられ、今尚古来の塩梅を醸し得るのは湛智の功績による。

（紙数の都合により注記は略す） 魚山末学（宝林寺住職）